やこう
学校だより　令和５年度６月号
令和５年５月３１日
横浜市立矢向小学校
ホームページアドレス
www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yako/

運動会の経験をつなぐ

副校長　小山　雅史

「この８０年間で最高の運動会にしましょう。」

これは、開会式の中での代表児童の言葉の一節です。今年度は創立８０周年であり、また、校舎の改築工事が始まるため、この校庭では最後の運動会となります。そんな節目となる運動会であり、特別な運動会、最高の運動会にしたいという思いがこの言葉には込められていて、その思いはみんなにしっかりと伝わりました。

５月の連休明けから運動会の練習が本格的に始まりました。目標をみんなで決めて実行委員会が中心になって練習を進めるなど、それぞれの学年で運動会に向けて取り組みました。学年だけではありません。代表委員会では、運動会のスローガンを話し合い、マスコットキャラクターは募集して決めました。応援団では、団長を中心に応援練習を重ね、みんなの気持ちを高めていました。大玉送りでは、相手チームを励ますエールが沸き起こりました。リレーも、高学年が低学年に積極的に声をかけ、バトンパスやカーブの走り方などの練習をするだけでなく、練習時間以外にも「バトンを貸してください。」と職員室に申し出て自主練習をしていました。運動が得意、好きな子どももいれば、苦手な子どももいます。みんなの気持ちがそろわず、練習がうまくいかなかったときもありました。学校のいたるところで、子どもたちが立ち向かう懸命な姿が見られました。運動会に関わる活動の中に壁があり、思いがあり、そうした過程を通して得られる力がありました。

運動会当日。子どもたちの姿はいかがだったでしょうか。新年度から２か月も満たないとても短い期間ですが、この紙面では表せないほどの内容の濃い２か月であり、着実に、さらに私たち大人が思う以上に子どもたちは成長したと感じています。

閉会式では、「運動会の経験をいかして、みんなで協力してもっと素敵な矢向小学校をつくっていきましょう。」という代表児童の言葉がありました。経験は次につながります。運動会はその日だけのものではありません。当日に至るまでの過程に子どもたちの力を伸ばす経験が詰まっていました。そして私たちは、子どもたちが成長する過程、経験をつなぐことを大切にしたいと思っています。

運動会を通して、子どもたちの姿をたくさんの保護者や地域の方に温かく見ていいただけたことを嬉しく思います。また、ＰＴＡ役員やおやじの会等ボランティアからなる矢向小サポーターズなど、たくさんの方々に裏方のお手伝いをしていただきました。皆様のご協力なくして運動会はできませんでした。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。
８０周年の節目の年です。引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。